



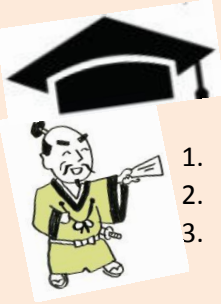
みはら玉手箱



平成24年4月22日に開講した「市民学芸員実践講座」は、10ヶ月のカリキュラムを全て終了し、平成25年1月20日（日）、めでたく閉講式を迎えました。

平成24年度市民学芸員実践講座

閉 講 式



1. 閉講式挨拶
2. 平成24年度の振り返り
3. 各グループの活動発表
4. 講演「三原の城下町」
5. 平成25年度の講座予定

教育部長
生涯学習課職員
情報発信グループ
収集グループ 全4班
体験グループ
三原市文化財協会会長 橋本敬一先生
生涯学習課職員



〔活動発表の様子〕

この閉講式における、各グループの活動発表内容について報告します。

(1) 情報発信グループ

三原市役所生涯学習課ホームページに「みはら玉手箱」という欄を創設し、市民学芸員の活動状況を随時報告できるようにした。

平成24年10月 創刊号発信
平成24年12月 第2号発信
平成25年03月 第3号発信予定

(3) 体験グループ

- (イ) 三原城及び周辺の石垣調査
- (ロ) 平成24年10月小学生の体験講座実施「お城の周りを探検しよう」
- (ハ) 平成24年11月三原浮城祭りの甲冑着用体験行事等で補助的作業

- (2) 収集グループ ; 三原市歴史民俗資料館・中央図書館等に保管されている古写真を4つのグループが分担してデジタルデータ化し、編集作業中。

(a) 吉原写真館古写真班

写真集「古写真で見る三原情景」

—吉原写真館の残したもの—

を編集発行した。三原市歴史民俗資料館蔵の吉原写真館が撮影した古写真と吉原写真館蔵の古写真を年代順（明治14年～昭和34年）に編集し解説文を付記したもの。

(c) 鮮本アルバム班

三原市史編纂委員・文化財保護委員等を歴任された鮮本刀良意（すしもと とらお）氏が、三原市歴史民俗資料館に寄贈された16冊の写真集を整理し、次世代に残す写真を抽出作業中。当日は、三原城天主台や河原谷川、山脇家裏の石垣に刻まれた地藏像や、めずらしい印の写真を例として紹介した。

(b) 図書館保管データ班

膨大なデータの整理の第一段階として、写真集「古写真で見る三原情景・映画館」をまとめた。（未発行）

かつて、三原の娯楽の殿堂であった7つの映画館（松竹座、文映、太平館、東映、大映、日劇、スカラ座）について、所在地を古地図に明示し、当時の賑いを物語る映画館を現状の周辺写真と対比して整理した。

(d) 宮本常一氏の古写真班

写真集「宮本常一氏の歩いた昭和の三原市」日本民俗学の権威者宮本常一氏の撮影された膨大な量の写真の中に、三原関係は350枚以上あった。その撮影箇所を訪ね、現状との対比で写真集にすべく整理中。当日は、棕梨ダム埋没前、高山城跡、佐木島和霊石地藏など10枚程度を例として紹介した。

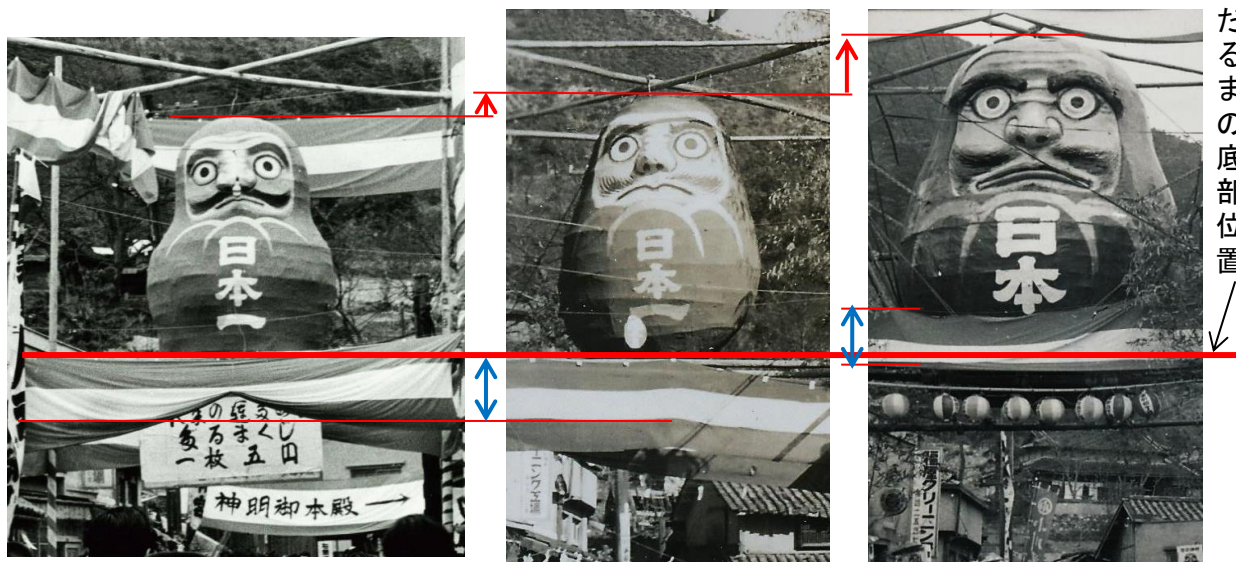
みはら おもしろクイズ



(解答は最下段にあります)

1. 日本一の神明大だるま 世代交代

創刊号でご紹介した日本一の神明大だるま(三原市東町)は、今年2月に世代交代しました。第4代目になります。初代からの大だるまの古写真が、三原市歴史民俗資料館で最近見つかりましたので対比してご紹介します。(三原市商工会議所のホームページにも同様な紹介があります)



初代(昭和25年頃～昭和27年) → 2代目(昭和28年～昭和34年) → 3代目(昭和35年～平成24年)

昭和27年撮影

昭和28年撮影

昭和41年撮影

紅白の幕の幅が一緒になるように写真の寸法を変更して並べてみました。大だるまは代替わりの度に大きくなっていったことが判ります。(年代は神明協賛会の資料による)



4代目(平成25年2月～)
平成25年2月6日撮影

4代目の仕様
高さ 3.9m
腹部直径 2.9m
重量 1500 kg



〔平成17年頃の3代目〕

クイズ

4代目は、鉄骨製の頑丈な構造で、重量も大きくなりました。

- (1) 倉庫への出し入れを便利にする工夫は？
(ア) 分割型にした (イ) キャスターをつけた
- (2) 新聞紙やクラフト紙等、多層の紙が貼ってあるが、毎年の風雨でも剥がれにくくするための工夫は？
(ア) 強固な糊 (イ) 表面の耐候性塗料

お詫びと訂正

創刊号で広島スカイアーチの開通を平成24年3月20日と記載しましたが、正しくは平成23年3月20日の誤りでした。お詫びして訂正します。

クイズの解答

(イ) (ロ) (ハ) (ニ)



三原のお祭り



能地春祭のふとんだんじり

のどかな瀬戸内の海に本格的な春の訪れる3月末(毎年第4土・日曜日、今年は3月23・24日)、幸崎能地で、「能地春祭のふとんだんじり」が、賑やかに開催されます。名替え祭、船留め祭とも呼ばれているこの浜の祭は、古来より漁業で栄えた能地の豊漁を願って行われる、常磐神社の勇壮な春祭りです。祭礼は、

常磐神社から御神体を乗せた神輿が出発し、氏神の幸崎神社に向かいます。そこで二神となり、御旅所の老婆社(うばくしゃ)で一夜を明かし、翌日、常磐神社にもどります。

見どころは何といっても、1丁目から4丁目の4台のだんじりが、渡御する神輿のお供や先導をし、神前で奉納する激しい練り合いです。ふとんだんじりと

呼ばれる太鼓台の上に、7層のふとんを重ねただんじりの練り合いは、うず潮に揉まれる船のごとき、勇壮で迫力があります。

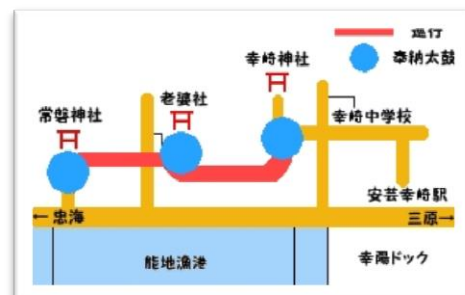
だんじりには、5～8歳くらいの化粧をし、着飾った男の子が、神童として乗り、太鼓を打ち続けます。

見どころのもう一つは、それぞれの神社前で奉納される獅子太鼓です。

平和と五穀豊穡、大漁を祈願し、8人の神童や若者によって演じられ、その打ち手は38手(以前は48あった)あります。神童たちは、担ぎ上げられたり、放り上げられたりしながら太鼓を打ち、ちゃんぎり(鉦)や笛の音も入り、軽快なリズムの中にも、優美さを醸し出しています。それに躍動感のある獅子舞が絡み、民俗芸能としての古い形を保っています。

だんじりが使われるようになったのは、天保から明治にかけての頃(19世紀中頃)、能地の漁民が、伊予地域から持ち帰ったといわれています。当初はふとんは無く、屋台型だったようで、ふとん型になったのは、明治後半頃のようにです。

平成7(1995)年に、県指定無形民俗文化財に選定されました。



以下の関連サイトを参考にさせていただきました。

(社)三原観光協会／三原市観光情報／三原市教育委員会／生涯学習課／広島県観光ひろしま観光ナビ 写真:ブログ青い目の侍

石碑が語る三原の歴史

みはら玉手箱第2号では現在の本郷町を中心とした一帯が沼田庄(ぬたのしょう)と呼ばれ、沼田氏による私領化を経て、平家領、西園寺領、そして鎌倉時代に小早川氏が根を下ろしたことについて少し詳しく触れました。第3号ではその続編として沼田川の北側にスポットを当て、現存する少し忘れられかけている石碑を紹介します。

道 標



〔道標 1〕

元は船木地域を流れる菅川(すげかわ)に架かる堂張橋(どうしょうばし)袂に建てられていましたが、昭和30年代の橋の架け替えに伴い撤去され、現在は本郷公民館に保存されています。高さは80cm。「左ハいづも道(出雲道)」、「右ハかふざん道(甲山道)」と刻まれております。

右は、菅川を北上し、姥ヶ原から馬井谷経由で甲山に通じていました。左は、菅川支流の追付川沿いに大和町の大草経由で出雲に通じてい

たといわれ、江戸時代から出雲に通じる主要道路だったことが伺えます。



〔道標 2〕

三原市役所本郷支所の前を走る旧道(元山陽道)沿いに現存しています。当時三次道と呼ばれた四十坂から高坂の佛通寺・久井の稲荷神社(現稲生神社)経由で三次へ向かう道の入り口だったことを示す道標です。

高さは115cm。文化6(1809)年己巳(つちのとみ)2月に広島庄屋檜皮屋(ひわだや)が建立したことが刻まれています。

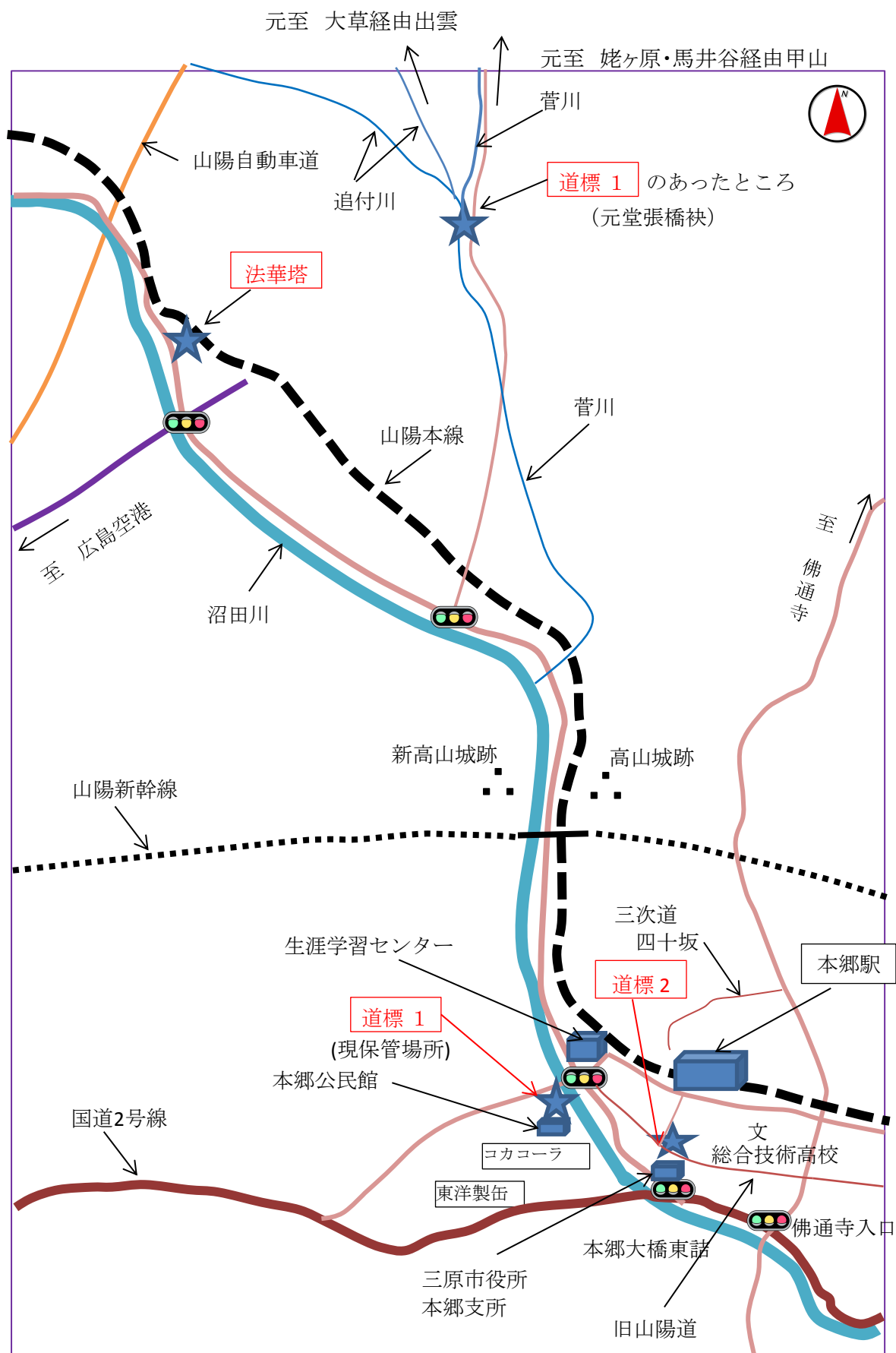
記念碑



〔法華塔〕

本郷町船木の県道 33 号線沿いに立っています。天保 7(1836)年当時度重なる沼田川の氾濫による堤防の決壊に難渋していた人々は、ある旅の僧の進言により、法華經の文字を一つの石の表面に一字ずつ書写したものを堤の一箇所に埋め、その上に「天保七年 法華塔」と刻んだ石塔を据え、堤防護持を祈願したと伝承されています。塔下部には一字一石とも刻まれています。現在の堤防が嵩上げされたのに伴い、この法華塔も平成 14(2002)年 3 月に嵩上げされ現在に至っています。高さは約 2 m、塔の側面と背面に文字が刻まれています。風化により判読が困難です。嵩上げ当時の本郷町教育委員会の調査では、出土した小石は約 4 万個、文字が書かれていた石が 768 個、その中判読できた石は 376 個だったことが記録に残っています。(参考 沼田本郷文化選)

概略マップ





三原にある狛犬



7/7



狛犬基礎知識

年代と作者がわかる！

狛犬は、底部や台座などに記された紀年銘（奉納者、奉納目的、製作者、製作・寄進年などを記した銘文）や、作風などによって年代・作者などが判明します。ただし、台座に寄進年・石工名などが彫られておらず、作風だけでの判別は困難であるという場合も多いようです。

（＊寄進＝神社・寺院へ、土地・金銭・物品などを寄付すること）

（廣江 正幸・永井 泰著「狛犬見聞録」より抜粋要約）

今回も前回に続いて旧市内東部地域にある狛犬を紹介します。

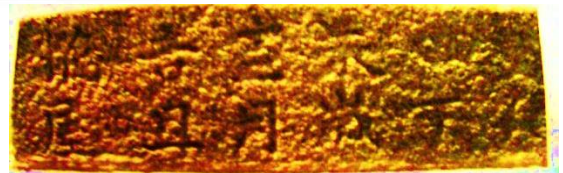
2. 瀧宮神社（たきのみやじんじや）

所在地 三原市中之町5丁目10-20

高さ 78cm
幅 50cm
奥ゆき 24cm

種類：出雲式狛犬（尾道式狛犬）
年代：弘化4（1847）年12月
願主：不明
石工：不明
石材：花崗岩

高さ 73cm
幅 52cm
奥ゆき 27cm



弘 四 未 十 吉 廣
化 丁 歳 二 旦 島
月

弘 四 未 十 吉 糺
化 丁 歳 二 旦 屋
月

台座に彫られている文字が風化しているので、少し解読が難しそうです。拓本を採れば解読できるかもしれません。
（解読の難しい箇所は新畑末男先生に助言いただきました。）